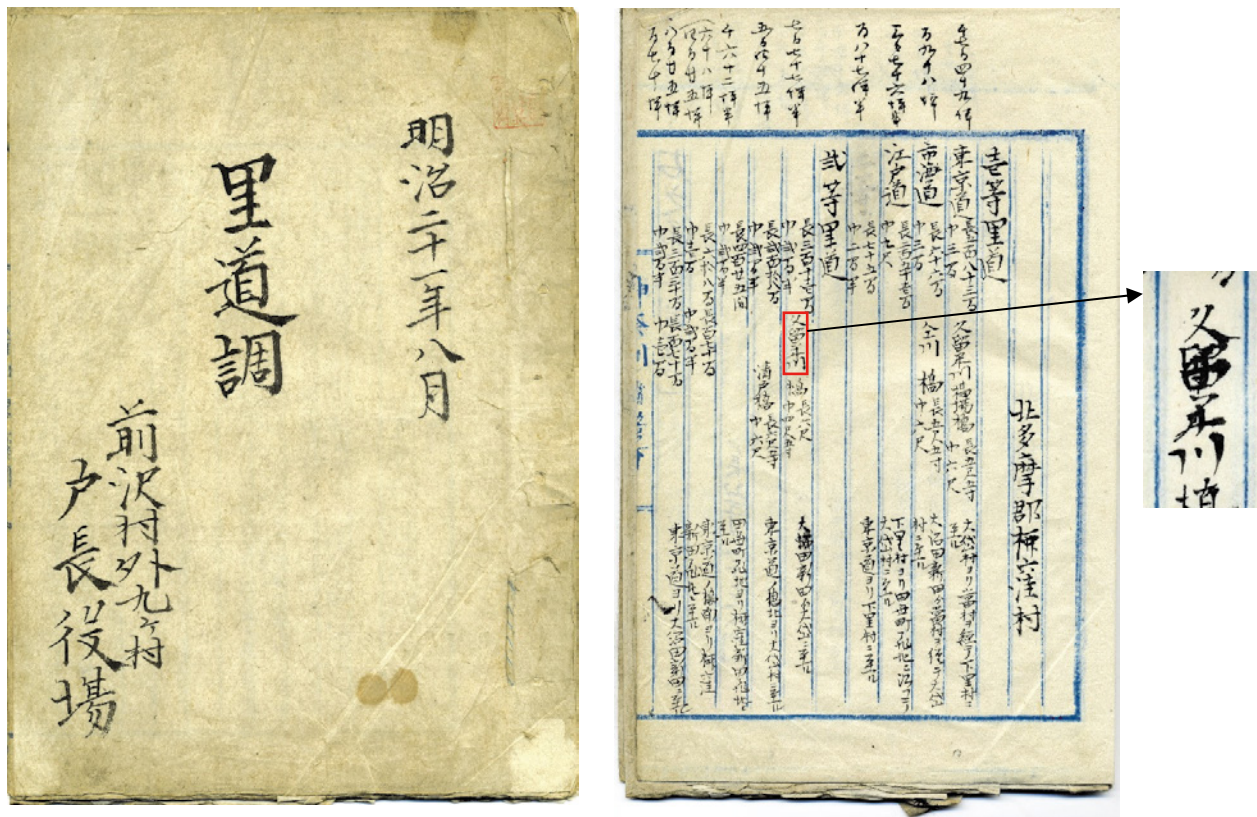


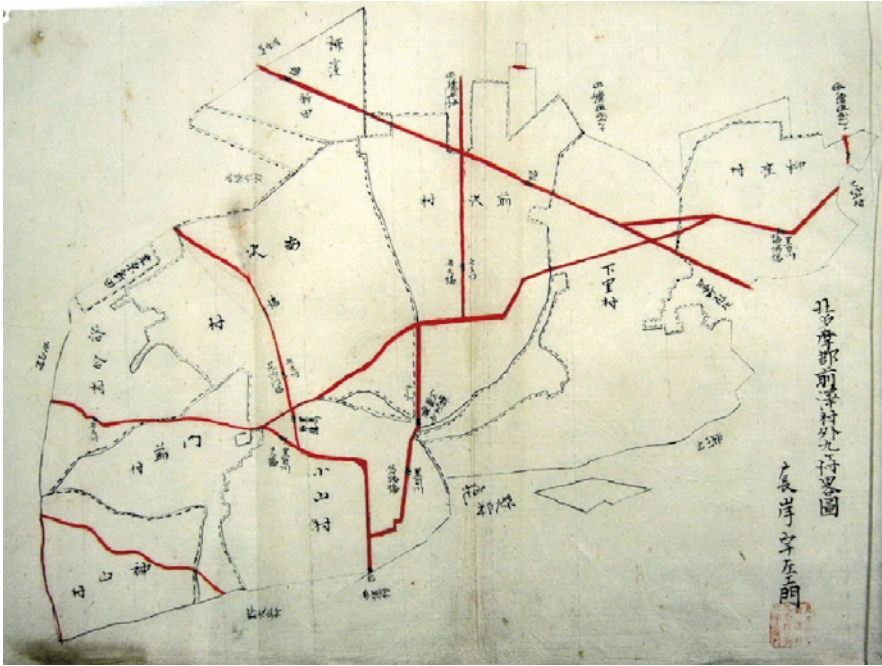
[新指定文化財]

東久留米市では、無形民俗文化財、有形民俗文化財、史跡、旧跡など70件が文化財として指定されていますが、令和3年1月に、2件の文化財が指定されました。「くるめの文化財」第33号～第35号で村野家の民具について紹介しましたが、今号ではもう一つの指定文化財「^{りどうしんべ}里道調」と、令和4年3月に東京都指定有形文化財（建造物）に指定された自由学園について紹介します。

1. 「里道調」[市指定有形文化財]



明治21年（1888年）8月に作成された『里道調』は、旧前沢村・南沢村・神山村・落合村・小山村・門前村・柳窪新田・柳窪村・下里村について、前沢村外九ヶ村連合戸長役場が実施した道路に関する調査報告書です。明治時代の道路の法的な扱いと、現在の東久留米市域の道路の様態が具体的に分かる歴史的な公文書で、村ごとに1等里道、2等里道について記載されており、「北多摩郡前沢村外九ヶ村略図 戸長岸宇左衛門」が添付されています。また、巻末には明治23年7月に久留米村が作成した「神奈川県北多摩郡久留米村里程図」及び明治24年2月付の久留米村村長からの上申書が追加添付されています。



『里道調』は、明治21年4月の「市制・町村制」公布から明治22年4月1日の久留米村成立の間に作成されたものであり、そのなかで門前村・柳窪村・下里村の3ヶ村が現在の黒目川を「久留米川」と表記しています（小山村は黒目川と表記）。明治時代では最古の「久留米川」の表記であり、しかも、久留米村誕生の前年にあたることから、久留米村の村名の由来を推測できる唯一の具体的な資料です。

2. 「自由学園」[東京都指定有形文化財（建造物）] 学園町1-8-15

自由学園女子部講堂・食堂・教室（4棟）・体操館の計7棟（中庭・大芝生・大谷石製擁壁等を含む土地付き）が東京都文化財保護審議会の答申を受けて、都の指定有形文化財（建造物）となりました。



自由学園は、大正10年(1921年)に羽仁もと子・吉一夫妻が創立した私立学校です。創立当初に雑司ヶ谷（現豊島区西池袋）に建築された校舎「自由学園明日館」^{みょうにちかん}（国重要文化財）は、アメリカ人建築家フランク・ロイド・ライト氏が設計しました。その後移転した現在地の南沢キャンパス（現東久留米市学園

町)の多数の校舎は、明日館建築の折にライト氏の助手を務めた愛弟子遠藤新氏(1889-1951)が設計しました。都の有形文化財に指定されたのは、昭和9年(1934年)の移転当時に建てられた女子部(中・高等科)の建物群のエリア全体です。この校舎とキャンパスは、代々の生徒たちが清掃をし、大切に使用してきました。

学園の正門から最も離れた場所に女子部は位置しており、キャンパスの起伏を活かし、講堂、食堂、教室(4棟)、体操館などの校舎を廻廊や中庭・池などとともに一体的に配置され、教育の場としての機能性・利便性だけでなく周囲の環境との調和が図られています。創立者の思想・教育理念に共感し、遠藤新氏は、その実現のための環境を作りしました。ライト氏の愛弟子としての思想を受け継ぎ、明日館のスタイルを継承しつつも、南沢キャンパスの校舎は遠藤新氏独自の作品として完成されています。



女子部食堂

中庭に向けた切妻屋根を有する左右対称の建物で、自由学園明日館(豊島区・国重要文化財)に似た意匠を有しています。



女子部体操館



大芝生と一体化した、東西に細長い建物で、体操館を中央に配置します。



女子部講堂



建造物群の中の西側の高台に建てられています。食堂とも似た意匠で、切妻屋根を有し、妻面に柱を配した建物です。入口へ向かい緩やかな階段、半円形の池が設けられ、さらに南北の玄関へと導く階段が設けられています。



女子部教室



教室は中庭を挟み東西に2棟ずつ計4棟が建てられ、2棟の間には長方形の池と園路が設けられています。教室棟・食堂・体操館をつなぐ廻廊には、明日館と同じデザインの照明が備えられています。

(写真提供：自由学園)

ご注意：自由学園は学校施設であるため、普段は見学できません。公開は見学会などとして行われます。開催日などは自由学園ホームページ等でお知らせいたします。

〔編集〕東久留米市郷土資料室（教育委員会生涯学習課文化財係）

〒203 - 0033

東京都東久留米市滝山4-3-14 東久留米市わくわく健康プラザ内

電話 042-472-0051 FAX042-472-0057